

平成25年7月16日

北栄町議会
議長青亀恵一様

産業建設常任委員会
委員長飯田正征

平成25年度産業建設常任委員会で調査研究したので報告します。

日時 平成25年7月10日～平成25年7月11日

視察先

JR九州トマトJr・農園・玉名
熊本県農業公園カントリーパーク
熊本農業研究センター

玉名市大浜町
合志市栄3802-4
合志市栄3801

JR九州トマトJr・農園玉名

農業主体 JR九州鉄道営業株式会社
農地面積 約3ヘクタール
施設 耐震性連棟ハウス 5棟
従業員 30名

調査結果

JR九州トマトJrは、こだわりトマトを作っている農園。

1・ポットファム（1鉢ずつ独立したポットで栽培する機械システム）

2・安全・安心・エコへのこだわり

- 二重扉の密閉性が高いハウスで害虫駆除の農薬も最小限
- 独立ポットのため病気の鉢を間引くことで拡散を防止
- 土耕栽培でないので土の消毒が不要

3・おいしさへのこだわり

- 培地量が少ないため、給液制御装置により少量多回数の給液が可能
- 糖度・酸味とも土耕栽培より高品質
- 少量農薬のため生食に最適

所 感

- ① 本社に農業推進室を設置し各地に進出している。
本町の基幹産業は農業であり、推進室を設置しては。
- ② 観光列車を運行している。
本町で実施している「味覚めぐり」を充実させ、回数を増やし、商品化し巡回バスの運行をしては。
- ③ 農福連携で、従業員30名中7名の身体障がい者の方を雇用している。
本町でも農福連携について、真剣に検討しては。

熊本県農業公園カントリーパーク

建設の理念

- ・ 県民の農業理解の場の創出
- ・ 自然緑に親しむ憩いの場の提供
- ・ 農業情報発信基地の創出

調査結果

- ① 「学習」「遊び」「解放感」の三つの視点から農業への理解が深まるよう配置されている。
また、「食べる」「買う」「触れる」「遊ぶ」などの行動も農業体験の一環となるように、農業館を核として農業公園がストーリー性のある点の場となっている。
 - 「学習」・・・農業館、展示温室、知識の森、フルーツ館
 - 「遊び」・・・わんぱく広場、イベント広場、物産館
 - 「解放感」・・・芝生広場、花の広場

② 入館者数

H23年 43万人 H24年 47万人

③ 年間の活動状況

- 農業体験と食事作り
- カンショウ、ラッカセイ、ジャガイモ、トウモロコシ、大根の植付け
- カンショウ、ラッカセイの収穫体験
- 年2回（5月、10月）の薔薇祭り
- 新春凧あげ大会
- 植木祭り

- 水遊び（7,8月）
- 小学生の県サッカー大会
- コスプレ大会（4,000人）
- コンサート

所 感

北栄町議会からの政策提言「全町公園化」・グリーンツーリズムと関連して検討しては、

熊本県農業研究センター

調査結果

熊本農業を拓く、農業技術開発の拠点として、稼げる農業を目指して農業者の所得を最大化するとともに、環境にやさしい農業を目指して新品種の育成・新たな栽培・飼育管理技術の確立などの研究を中心に、熊本県の農業分野における技術革新の拠点・農業情報の発信基地としての役割を果たしている。

昨年、熊本県の米「森のくまさん」が、平成24年度米の食味ランキングで全国の有名品種を抑え日本一の栄冠をつかんだ。

- * 「森のくまさん」・・・コシヒカリとヒノヒカリを両親に育った。
農業研究センター育成第1号の熊本県産オリジナル商品。

熊本県農業の概要

- 農業生産の担い手である認定者数は全国3位、基幹的農業従事者は全国7位。
- 平成22年度の農業生産額は全国5位、平成21年度の農業所得は全国第9位。
- 各品目の生産量は、平成22年は全国1位が5品目（イグサ、宿根カスミソウ、スイカ、トマト、葉タバコ）その他にもデコポン、甘夏ミカンなど全国的にも上位を占める品目が数多くある。

所 感

研究機関に力を入れている様子と、職員のやる気・意欲を垣間見ました。

食味ランキング日本一の栄冠に恥じないよう一層の研さんが必要とのことでした。